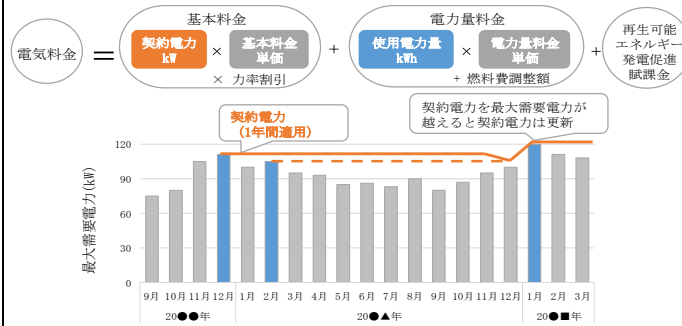


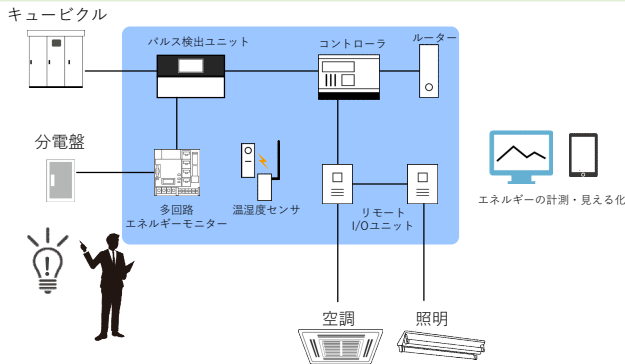
モデル	EMS(見える化などエネルギーマネジメントシステム)の導入
概要	EMS導入によるエネルギーの活用状況の把握と積極的な制御による光熱費削減
対象業種	全般

電気料金の仕組み(高压 実量制の場合)



エネルギーの使い方をまずは把握
↓
基本料金に係るデマンド制御や
手動監視などを実施
↓
機器ごとの制御も可能に→将来のVPPへ

EMSイメージ



EMSは
・見える化と分析のみ
・見える化とデマンド監視
・見える化とデマンド制御
などの段階にわかれる。
電気料金の基本料金・従量料金の
両方の削減に寄与する。

導入によるメリット

メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネにより、エネルギーコストが削減可能 ・電気やガスなどの燃料消費状況がグラフやチャートで可視化され、省エネ対策の効果を経営者に説明しやすい ・老朽化した機器が特定でき、タイムリーな更新によって生産性向上が期待できる ・将来的なVPPへの参入の可能性はある 		
光熱費の削減効果	10.0~30.0	%	各種事例・文献から
CO ₂ 削減効果	3.0~64.0	%	各種事例・文献から
投資回収年数目安	5~10年以内での回収事例・モデルもあり(場合による)		メーカーカタログ値など

試算条件・コストなど(比較的小規模な設備例を対象)
※EMSは各事業所に対して何を実施するかに対してカスタマイズするため、例示パターンとしてコストと削減率例を記載

大項目	小項目	設定	備考
イニシャルコスト	見える化のみ	3千円/月	初期費用10千円(電気保安協会)⑥
	見える化+診断+制御	100千円/月	メーカーカタログ値 ⑤
ランニングコスト例	デマンド監視・警報	200~1000千円	メーカーカタログ値 ①・②
	デマンド自動制御	800千円	メーカーカタログ値 ②
	見える化+デマンド自動制御	1400千円	メーカーカタログ値 ②

検討に当たっての留意点

- ・接続や制御、監視する機器点数によってコストが大きく変動する
- ・補助制度については毎年補助率や要件が変わるため最新の情報に留意すること